

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・音楽科 2年	現代文B	2	標準現代文B（第一学習社）	佐藤・信藤

(学習目標)

- ・様々な作品に触れることで国語に親しみ、文章を主体的に読む力を養う。
- ・本の帯作りや短歌創作を通して豊かな表現力を養う。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学 期	4	①「わたしはあなただったか もしれない」 ②「新しい地球観」	12 時間	①随想に親しむ ②評論に親しむ。地図が作る「世界の見方」について考える ①②語句・漢字の理解と習熟 具体例と抽象的な記述の関係を理解
	5	・中間考査		
	6	③「「私」という「自分」」 ④「デューク」	16 時間	③随想に親しむ 語句・漢字の理解と習熟 ④小説の読解 登場人物の心情と、それに伴う行動を理解する
	7	・期末考査 ①「ヒトはなぜヒトになったか」		①評論の読解 具体例と抽象的な記述の関係を理解する
2 学 期	8	②「情けは人の…」	10 時間	②評論の読解 自らの言葉の使い方を振り返る。 本文に線引きをしながら、読解を深める方法を身につける
	9	③「ナイン」 ・中間考査		③小説の読解 語句・漢字の理解と習熟 作品の主題を読み取る
	10	④「名所絵はがきの東西」	14 時間	④評論の読解 語句・漢字の理解と習熟 西欧との比較を通して、日本人の美意識への理解を深める
	11	⑤「鼻」 ・期末考査		⑤小説の読解 語句・漢字の理解と種塾 主人公の人物像・心情の変化を読み取る
	12	①「永訣の朝」		①詩に親しむ 表現の特色、作者の心情を理解する
3 学 期	1	②「こころ」	14 時間	②小説の読解 語句・漢字の理解と習熟 登場人物の性格・心理・行動を読み取る。
	2		合計 64 時間	小説の書かれた時代について正確に理解をする
	3	・期末考査		

(評価方法)

- ・定期考査実力考査の点数を基準とし、学習意欲・提出物等を考慮して総合的に評価する。
- ・学期の5分の1以上の欠課は評定を1段階以上下げる。
- ・特定の課題については、不達成の場合評定を「1」とする。
- ・特に達成度の低い者は評定を「1」とする。

(備考・注意事項)

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
2年	古典B	3	古典B（第一学習社） 体系古典文法（数研出版） プレミアムカラー国語便覧（数研） 全訳古語辞典（大修館）	青木・信藤

(学習目標)

- ・古典文学や漢文を読むことで日本や中国古来の文化等に親しみ、ものの見方・感じ方を広げる。
- ・古典文法を身につけ、作品を正確に理解する。
- ・漢文訓読が出来るようになる。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	①『古本説話集』平中が事 ②『十訓抄』大江山 ③文法事項の確認	18 時間	①②鎌倉時代の文章を通して古文に親しむ 一年次既習事項の確認 説話文学についての理解 ③用言の復習と助動詞の理解	
	5	・中間考査			
	6	④『古今著聞集』文字一つの 返し	15 時間	④説話文学および和歌への理解 人物関係を整理し、和歌の役割を理解する ⑤敬語法の理解と習得 ⑥一年次既習事項の確認 ⑦故事成語のもとになった故事や逸話に関心を持つ 句形の理解と訓読の習得	
	7	⑤文法事項（敬語） ⑥文法事項の確認（漢文） ⑦「朝三暮四」			
		・期末考査			
			①『枕草子』「うつくしきもの」		①随筆に親しむ ものの見方・考え方を理解する
	2 学 期	8	②『方丈記』ゆく川の流れ	21 時間	②③随筆に親しむ 三大随筆の特徴を理解する ④漢文に親しむ 句法・重要語句の習得 文章の展開と内容が理解できたか
9		③『徒然草』公世の二位のせうとに ④「画竜点睛」「推敲」 ・中間考査			
10		⑤『中国の詩』	24 時間	④歌物語への理解 和歌の役割への理解、敬語の習得 ⑤漢詩に親しむ 近代詩の決まりを理解する 作者の心情を的確に理解する ⑥歌物語への理解 和歌の役割への理解、敬語の習得	
11		⑥『伊勢物語』初冠・通ひ路の関守・小野の雪 ・期末考査			
12		①『万葉集』			
3 学 期	1	①続き『古今和歌集』『新古今和歌集』	27 時間	①和歌に親しむ それぞれの時代背景や、表現上の特徴を理解 ②中国の思想に親しむ	
	2	②論語			
	3	・期末考査	合計 105 時間		

(評価方法)

- ・定期考査実力考査の点数を基準とし、学習意欲・提出物等を考慮して総合的に評価する。
- ・学期の5分の1以上の欠課は評定を1段階以上下げる。
- ・特定の課題については、不達成の場合評定を「1」とする。
- ・特に達成度の低い者は評定を「1」とする。

(備考・注意事項)

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・2学年(文系)	地理歴史・日本史B	4	日本史B 新訂版(実教出版) 最新日本史図表 三訂版(第一学習社) 4ステージノート日本史B 改訂版(数研出版)	山浦・中島

(学習目標)○日本史の大きな流れを理解する。
○日本の文化と伝統の特色についての認識を深める。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学 期	4	第1章 日本文化のあけぼの	24時間	旧石器時代と縄文時代の人々の生活や社会・文化が、発掘調査の成果によって明らかになってきたことや、考古学の方法について理解する。縄文土器や磨製石器などの遺物、竪穴住居や貝塚などの遺構から、縄文時代の人々の生活と社会・文化について理解する。弥生時代の形成と、身分の文化や階級の成立にみられる社会の変化について理解する。大和政権が西日本を中心とした各地の首長の連合体として形成され、統一国家に向かっていったことと、その政権の特質について理解する。大和朝廷の国内統一、律令体制の成立から奈良時代に至る政治の動向、及び律令に基づく土地と人々に対する統治の体制が整備されてきたことを理解する。
	5	・中間考査 第2章 律令国家の形成	20時間	
	6	第3章 貴族政治と国風文化 ・期末考査 第4章 中世社会の成立		東アジア世界との関係と、古墳時代の大陸文化の伝来や、その後の遣隋使・遣唐使などによってもたらされた文物・制度の影響に注目し、天平文化などの特色について考察する。律令体制の変質に伴って摂関政治や院政が展開したことを理解する。公家政権との抗争の中から、鎌倉幕府が独自の武家政権を創出させていったことを理解する。更に承久の乱を経て公武二元政権から武家単独政権となり、執権政治が確立・進展・変質していったことをとらえる。
	7			貨幣経済の進展や、元寇を契機とした御家人制度の崩壊が進み、悪党らの反社会的な行動も隆盛化して鎌倉幕府が滅亡していったことを理解する。
2 学 期	8	第5章 武家社会の成長	31時間	交通の発達などによって流通経済が進展したことを理解し、諸産業の発達などを背景に庶民が台頭したこと、応仁の乱後の下克上の風潮を背景に戦国大名が各地に登場し領国の経済発展と軍事力強化をはかったことを多面的に考察する。武家政権の支配の進展や庶民の台頭、東アジア世界との交流に着目し、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽、地方での文化の普及の様相を理解する。ヨーロッパ人の来航と外来文化の受容がそれ以後の日本の歴史に果たした役割・意義を理解する。信長・秀吉の統一過程や全国的な支配体制の確立過程をとらえる。幕藩体制と対外関係を構造的に理解し、大名等の統制のあり方や鎖国の実態について考察する。身分制度の実態を理解し、農村や都市の自治的支配機構のあり方や近世的な文化の創出について考える。
	9	第6章 幕藩体制の確立 ・中間考査	33時間	
	10	第7章 幕藩体制の展開		文治政治的な傾向を強めた幕府政治が展開されるに至った背景を把握し、経済の発展が封建制に及ぼした影響を考え、幕政改革について理解する。開国の衝撃を契機とした幕末の政治的激動の過程と、明治新政府による中央集権体制の確立過程を理解する。明治憲法体制の特質を踏まえ、日清・日露の両戦争を世界史的背景をもとに理解しこの間の政治構造の変化について考察する。
	11	第8章 幕藩体制の動揺 第9章 近代国家の成立 ・期末考査		世界史的意義をとらえた上で、日本の対応と、大戦が日本経済に及ぼした影響について考える。都市化と中産階級の成長を背景に誕生した大正・昭和初期の市民文化について理解を深める。
3 学 期	1	第11章 占領下の日本	32時間	軍国主義化の進展のなかで日中戦争が勃発し、総動員体制の進行と枢軸体制の形成さらにアジア太平洋戦争の開戦にいたる経緯を、当時の国際情勢とあわせて理解する。戦時下の国民生活の実態について具体的な理解を深める。占領政策が戦後日本の政治・社会・経済の基礎を築いたことを理解する。それが冷戦構造の深まりにより現在まで及ぶ戦後日本の対外関係の基軸が成立した過程を理解する。高度経済成長の過程で日本社会が大きく変貌したこと、またその終わりとともに政治構造の変化が生じたことを考察する。
		第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本 ・期末考査	年間 合計 140時間	

(評価方法)

- ①定期考査の点数を基準とする。
- ②1・2学期においては、授業態度・提出物などが良好でない場合、及び欠課時数が1/5以上でサボリ・怠惰などによる場合は評定を下げる。
- ③1・2学期においても、欠課が学期の1/3以上の場合は「1」とする。

(備考・注意事項)

- 地図や映像教材などを活用し、歴史のイメージを豊かにしたい。
- 身近な地域の教材を活用して理解を深めたい。
- 史料に触れ、当時の人々の言葉や社会の空気感のイメージを持ちたい。
- 大きな歴史の流れを俯瞰できるような理解を求めたい。

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・2学年 (理系)		地理歴史・地理B	3	新編詳解 地理B (二宮書店) 2022新編地理資料(東京法令出版) 標準高等地図 (帝国書院)	中田
(学習目標) 世界の自然環境・地理的事象を系統的に学び、現代における諸問題を考察する。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	・地球のサイズ ・地図の見方	18 時間	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀と様々な世界地図の比較から始まり、方位や時差について知識を深め地理的な見方や考え方を身に付けさせる。 地球の概観を理解し、各図法の特徴をつかむ。 世界の大地形を知り、地震や津波について考える。 	
	5	・世界の大地形 ■中間考査			
	6	・小地形	15 時間		
	7	・世界の気候 ■期末考査			
2 学 期	8	(実力考査) ・世界の農牧業 ・世界の鉱工業	24 時間	<ul style="list-style-type: none"> 農業の立地と地域性について理解する。 エネルギーと鉱産資源産業の立地について理解する。 工業立地と地域性について理解する。 	
	9	■中間考査			
	10	・人口、都市と村落	24 時間		
	11	・民族、領土問題 ■期末考査			
3 学 期	12 1 2 3	(実力考査) ・世界地誌 ・日本地誌 ■期末考査	24 時間 年間 合計 105 時間	<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域や日本における様々な事象について理解する。 	
(評価方法)					
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の点数を基準とする。ノート・プリントなどのまとめ方についても評価の対象とする。 1・2学期においては、授業態度・提出物などが良好でない場合、及び欠課時数が1/5以上で怠学などによる場合は評定を下げる。 1・2学期においても欠課が学期の3分の1以上の場合、 「1」とする。 					
(備考・注意事項)					
<ul style="list-style-type: none"> 映像教材などを活用し、イメージを豊かにしたい。 一つの事象から他の事象へと多面的に考えられるようにしたい。 地図情報の加工のために色鉛筆やマーカーなどを用意。 					

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・2年I類		数学・数学II	4単位	数研出版 改訂版 最新数学II 数研出版 3ROUND 数学II	木住野 山浦
【学習目標】いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うと共に，それらを活用する態度を身につける。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	第1章 式と証明	26時間	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の割り算の計算法と意味を理解する。 ・分数式の計算に習熟する。 ・式に関する証明の表現法を身に付ける。 ・虚数単位の定義と複素数の演算を身に付ける。 ・方程式の解について理解を深める。 	
	5	第2章 複素数と方程式 ・中間考査			
	6	第2章 複素数と方程式 ・期末考査	20時間		
	7	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円、軌跡と領域			
2 学 期	8	第2節 軌跡と領域	26時間	<ul style="list-style-type: none"> ・動点の条件を式化することにより，方程式を導く。 ・三角関数のグラフを導き，波動を解明する基礎を培う。 ・加法定理を理解し身に付ける。 	
	9	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 ・中間考査			
	10	第5章 指数関数と対数関数	32時間		
	11	・期末考査			
12	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法	<ul style="list-style-type: none"> ・微分の意味について理解し，その演算法を身に付ける。 			
3 学 期	1	第1節 微分法 第2節 積分法	36時間	<ul style="list-style-type: none"> ・微分を利用し，整関数の増減を調べる。 ・積分と面積の関係を理解し，2次関数のグラフと直線とで囲まれた部分の面積を計算できるようにする。 	
	2	・学年末考査			
	3		年間合計 140 時間		
【評価方法】 定期考査の点数・出席状況・授業態度・提出物状況を総合的に判断して評価する。					
(備考・注意事項)					

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・2年Ⅱ類		数学Ⅱ・数学B	数Ⅱ 4単位 数B 2単位	数研出版 最新数学Ⅱ 数研出版 最新数学B 数研出版 3ROUND数学Ⅱ/数学B	山浦良人
【学習目標】 いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分、数列またはベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	【数学B】 第1章 平面上ベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間のベクトル ・中間考査	30時間	ベクトルに関する基本的な用語・記号に習熟する。 ベクトルの性質に関心を持ち、演算や平行・分解について理解し、ベクトルの内積を求めることができる。 位置ベクトルについて理解を深め、平面上の直線や円についてベクトルを用いて表すことができる。 空間における座標を定め、平面同様に空間においてもベクトルの考えを用いて問題を解くことができる。	
	6			【数学Ⅱ】 第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 ・期末考査 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円、軌跡と領域	45時間
	7				
2 学 期	8	第2節 円、軌跡と領域 第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 ・中間考査	35時間	動点の条件を式化することにより、方程式を導く。 ある不等式が表す領域を図示することができる。 弧度法による角の表示を理解する。 三角関数の性質を理解する。また、グラフの特徴に興味を持ち、グラフをかくことができる。 三角関数の方程式や不等式の解法を理解する。 加法定理を認識し、解法に用いることができる。	
	9				
	10	第5章 指数関数と対数関数 【数学B】 第3章 数列 第1節 数列とその和 第2節 漸化式と数学的帰納法 ・期末考査 第1節 漸化式と数学的帰納法	60時間	指数の拡張に興味を持ち、指数法則について理解する。 累乗根の意味を理解し、計算することができる。 指数関数の特徴と性質を理解する。 対数の定義を理解し、指数関数の性質と関連づけながらその性質を学ぶ。 グラフの接線と傾きと対比し、微分係数の図形的な意味を理解する。 等差数列・等比数列・階差数列について関心を深め、一般項や和を求めることができる。 記号Σの意味と性質を理解し、その計算ができる。 漸化式を扱うことができる。 数学的帰納法について興味を持ち、証明問題に利用できる。	
11					
12					
3 学 期	1	【数学Ⅱ】 第6章 微分法と積分法 第1節 微分法 第2節 積分法 ・期末考査	40時間	微分の意味について理解し、その演算法を身に付ける。 微分法を用いて関数の増減を調べ、極値や最大値・最小値を求めることができる。 定積分の定義を理解し、その計算ができる。 曲線や直線で囲まれた図形の面積を求めることができる。	
	2		年間合計 210 時間		
	3				
【評価方法】 定期考査の点数・出席状況・授業態度・提出物の状況を総合的に判断して評価する。					
【備考・注意事項】					

2年 生物基礎シラバス

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科 2年	理科・生物基礎	3	数研出版 生物基礎 浜島書店 ニューステージ 生物図表 数研出版 リードLight/ト生物基礎	饗場・北村

(学習目標) 自然の事物・現象に関する観察・実験などを通して、生物とはどのような存在か、どのようにして生きているか、地球という星で暮らしている生物と環境との関係は、などの基本を理解する。さらに、科学的な自然観を育成する。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
学 期	4	第1章生物の特徴 1 生物の多様性と共通性	18時間	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性と共通性の理解。細胞についての理解。 ・生物は物質とエネルギーを用いて生命活動を行っていることへの理解。光合成及び呼吸についての理解。
	5	2 エネルギーと代謝 3 光合成と呼吸 ・中間考査		
	6	第2章遺伝子とのはたらき 1 遺伝情報とDNA 2 遺伝情報の発現 ・期末考査 3 遺伝情報の分配	15時間	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子の本体であるDNAの構造と情報のしくみに関する理解。遺伝情報をもとにタンパク質が合成されることへの理解。遺伝情報は次の世代へと伝えられていることへの理解。
学 期	8	第3章生物の体内環境 1 体液という体内環境	21時間	<ul style="list-style-type: none"> ・多細胞動物において、体液は重要な体内環境である。 ・体内環境を一定に保つための調節・しくみについての理解。
	9	2 腎臓と肝臓 3 神経とホルモンによる調節 ・中間考査		
	10	4 免疫 第4章植生の多様性と分布 1 さまざまな植生 2 植生の遷移 ・期末考査 3 気候とバイオーム	24時間	<ul style="list-style-type: none"> ・からだを守るしくみの理解。 ・地球にはさまざまな植物集団(植生)が存在すること、その構造や変化について理解。 ・植生と気候との関連の理解。
学 期	1	第5章生態系とその保全 1 生態系	27時間	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系の成り立ちの理解。 ・生態系では物質やエネルギーの移動がみられ、そのバランスが重要であることへの理解。 ・生態系のバランスには人間活動が大きく関わっていることへの理解。
	2	2 物質循環とエネルギーの流れ 3 生態系のバランス		
	3	4 人間活動と生態系の保全 ・期末考査		

(評価方法)
・試験の得点、平常点(授業に臨む態度等)、提出物等を総合して評価する

(備考・注意事項)
・学期内で欠課時間数が1/5を超える場合は、評価を1段階以上下げる

学校番号	課程
37	全日制

R4シラバス (年間指導計画)

(別記様式2)

小 高 全 普 学 校 全 校 生 徒 数 479 (66) 人 学 級 数 15(3) 学 級 保 健 体 育 科 職 員 5 人

◎学校教育目標

(民主的な社会の進展に貢献できる全人的な人間の育成を目指す。)
 社会的関係の中で自己実現を果たしていくために、それぞれの場面で自ら目的を設定し、その実現のために積極的に行動していく主体性を持った生徒の育成を図る。
 ①自分から目的を設定し、積極的に行動していく「主体性」
 ②社会の一員としての自覚と他者の立場を尊重しよりよい人間関係を形成する「社会力」

◎保健体育科目標

・自主自律の精神の育成 (ルールの遵守・他者への気づき・授業への取り組み)
 ・体力の向上 (日常生活・社会生活を送る上での基礎体力の向上・健康の保持増進)
 ・運動の楽しさに触れる (生涯スポーツ・趣味等の観点)

科目	学 年	単 位 数	1 学 期																																			2 学 期										3 学 期									
			4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月				11 月			12 月				1 月		2 月		3 月																					
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35																				
体	1 年 次	2 単 位	男子	A体づくり+ 身体測定 (新体力テスト)			A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論・卓球 バド・バスケ)			ク ラ 練 ス マ ツ チ			F 武道 レスリング応用 (バレーボール)				E 球技 サッカー			H 体 育 理 論				E 球技 バスケットボール																														
		女子	A体づくり+ 身体測定 (新体力テスト)			A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論・卓球 バド・バスケ)			E 球技 ソフトボール 硬式テニス			E 球技 バドミントン			E 球技 卓球・バスケットボール (1時間ごと交互に行う)																																							
	時 間	100	2			18			10			14			3			14				18			6				15																												
	2 年 次	2 単 位	男子	A体づくり運動 +身体測定 (新体力テスト)			A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論・卓球 バド・バスケ)			ク ラ 練 ス マ ツ チ			E 球技 バレーボール				E 球技 サッカー			H 体 育 理 論				E 球技 バスケットボール																														
		女子	A体づくり運動 +身体測定 (新体力テスト)			A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論・卓球 バド・バスケ)			E 球技 ソフトボール 硬式テニス			E 球技 バドミントン			E 球技 卓球・バスケットボール (1時間ごと交互に行う)																																							
	時 間	70	12			10			10			2			10				10			6				10																															
育	3 年 次	3 単 位	男子	A体づくり運動 +身体測定 (新体力テスト)			選択① (新体力テスト) バレーボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			D 水泳 (体育理論・卓球 バド・バスケ)			ク ラ 練 ス マ ツ チ			選択② バスケットボール テニス バレーボール				E 球技 サッカー			選択③ バスケットボール 卓球 フットサル																																		
		女子	A体づくり運動 +身体測定 (新体力テスト)			選択① (新体力テスト) バレーボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			D 水泳 (体育理論・卓球 バド・バスケ)			E 球技 バスケットボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			E 球技 バドミントン			選択③ バスケットボール 卓球 ソフトバレー フロアホッケー																																							
時 間	105	20			16			16			3			16				18			16																																				
ス ポー ツ	3 学 年 2 単 位	集団行動	体づくり 運動	マット運動、ダンス、水泳、陸上										体育理論・礼儀、マナー研修 (面接指導)				フットサル、ソフトバレー、バドミントン																																							
保 健	1 年 次	1 単 位	オリエン テーション	筋肉系 骨格系	「現代社会と健康」 1 健康の考え方と成り立ち~ 5 がんの治療と回復										期 末 テ ス ト	「現代社会と健康」 6 運動と健康~1 9 健康に関する環境づくり										期 末 テ ス ト	「安全な社会生活」 1 事故の現状と発生原因~6 心臓蘇生法										期 末 テ ス ト																				
	2 年 次	1 単 位	「現代社会と健康」 1 9 交通事故の現状と要因~2 4 日常的な応急手当										期 末 テ ス ト	「生涯を通じる健康」 6 加齢と健康~ 1 1 さまざまな保健活動 や対策				「社会生活と健康」 1 大気汚染と健康~9 健康的な職業生活						期 末 テ ス ト	レポ ー ト 学 習 ガ イ ド ン ス	レポート学習・製本・発表・まとめ				期 末 テ ス ト																											
体 育 的 な 学 校 行 事 等 日 を 記 入)	(期)	7 / 2 (土) 体育祭										9 / 7 (水) ~ 9 / 8 (木) クラスマッチ (球技)																																													

※3年生選択については、選択した人数により開講できない科目もある。

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通・2年		コミュニケーション英語Ⅱ	4	Power on English CommunicationⅡ東書 準拠ワークブック	斎藤・宮島
(学習目標) 1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 書いたり話したりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	4月テスト ① Lesson 1 関係代名詞、 現在完了進行形	24 時間 (6×4)	①②に共通して 1. 様々な話題に関する英文に触れる。 2. 学年までで学習した文法事項に気づきながら英文を読み進めることができる。 3. 新出単語や新出表現を学び、それらを使って書いたり、話したりすることができる。 4. 話題について、自分の意見をまとめることができる。	
	5	② Lesson 2 SVO、強調構文 助動詞+受け身 中間考査 ALTの英語授業2時間			
1 学 期	6	③ Lesson 3 関係副詞、 過去完了形	20 時間 (5×4)	③④に共通して、①②の学習内容の到達事項を達成した上で、 5. 英語のT・F問題を自分なりに答えることができる。	
	7	④ Lesson 4 非制限用法、 SVOC (知覚動詞) ALTの英語授業1時間			
2 学 期	8	⑤ Lesson 5 分詞構文、 倍数表現 実力テスト	32 時間 (8×4)	夏期休業中の課題で1学期の知識定着を図り、教科書の読解を進めると共に、⑤⑥に共通して、①～④の学習内容の到達事項を達成した上で、 6. 英語のQAをグループで相談して答えることができる。	
	9	⑥ Lesson 6 進行形の受け 身、未来完了形 ALTの英語授業3時間 中間考査			
2 学 期	10	⑦ Lesson 7 前置詞+関係 代名詞、同格を表 す接続詞	28 時間 (7×4)	⑦⑧に共通して、①～⑥の学習内容の到達事項を達成した上で、 7. 英語のQAを自分の力で答えることができる。 8. 話題について、グループで自分の意見を言うことができる。	
	11	⑧ Lesson 8 付帯状況with, to have 過去分詞 ALTの英語授業4時間 期末考査			
3 学 期	12	⑨ Lesson 9 強調表現、形式 目的語	36 時間 (9×4)	⑨⑩に共通して、①～⑧の学習内容の到達事項を達成した上で、 9. 英語と日本語で要約ができる。 10. 話題について、グループで話し、グループとしての意見をまとめて発表できる。	
	1	実力テスト ⑩ Lesson 10 be to do、 仮定法過去			
	2	期末考査 問題演習			
(評価方法) ・定期テスト・小テスト・提出物・授業態度などを踏まえ、総合的に評価する。 ・各学期毎の欠課時数1/5オーバーに対しては評価を減点する。					
(備考・注意事項) ・2週に1回のALTによる英語運用の実際的な機会を設け、習得したものを活用してみる。 ・教科書材料を元に自学自習の「スタイル」を作れるように工夫する。 ・異文化の理解の「見方」を体験させ、他者との意見交換の大切さを理解するよう工夫する。					

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・音楽科 2年		英語表現Ⅱ	2	EMPOWER English Expression II (桐原) 準拠ワークブック	斎藤千・宮島・ 山浦雄
(学習目標)					
① 英語を理解するための基礎的な文法知識・運用能力を身につける。					
② 学んだ文法事項や表現を活かしてコミュニケーションに繋げようとする姿勢・態度を育成する。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	Part 1 Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3	1 2 時間 (6×2)	文構造及び基本的な時制や構文など、これまでの既習事項を確認しながら、簡単なアクティビティーを通して表現の運用能力を高める。英語で部活や趣味・旅行・ニュース・料理などについて書く・話す機会を設け、積極的に英語を使用する。SVOCの文章や完了形など難しい表現もペアワークやドリルで運用能力を養う。	
	5	Lesson 4 Lesson 5 ・中間考査			
	6	Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 ・期末考査 Lesson 9 Lesson 10	1 0 時間 (5×2)	進行形や未来表現、受け身、助動詞など、異なる述語動詞の形に注意して、学校生活や行事、観光名所について、英語で説明したり、英語で新聞記事や手紙・メールを書く。またペアワークやグループワークを通し、内容について質問をしたり、自分の意見を伝えたりする。リスニング教材も活用し、聞く力も養う。	
2 学 期	8	Lesson 11 Lesson 12 Lesson 13	1 4 時間 (7×2)	名詞・形容詞の働きをする語句や節について理解し、英作文等で活用する。グラフの読み取り、グリーティングカードの作成に加え、関係詞を用いて少し長い英作文にも挑戦して、将来の夢、映画や地域の紹介をする。 ディクテーションやペアワークで暗唱し、活用できるように練習する。	
	9	Lesson 14 ・中間考査			
	10	Lesson 15 Lesson 16 Lesson 17 Lesson 18 Lesson 19 ・期末考査	1 6 時間 (8×2)	副詞の働きをする語句や節について理解し、分詞構文や否定、様々な比較表現を学び、活用できるようにする。日本の文化や地域の特産物、クラブ紹介などについて、新聞への投書や広告などを作成し、様々な表現方法を習得する。アクティビティを取り入れて、表現の運用能力を高める。	
3 学 期	12	Lesson 20 Part 2	1 8 時間 (9×2)	仮定法を用い、アドバイスを求める表現を学び、メールを書いたり、学んだことを活かし、パラグラフ構成に注意して、すこし長めのまとまった英文を書く。ペアワークやグループワークを通して、他人の意見も参考に、時間・分類・比較・原因などの観点から、相違点や具体例・因果関係を挙げて説明し、自分の意見をまとめる。みんなの前でスピーチをしたり、他の人のスピーチの評価も体験する。	
1	Lesson 1 Lesson 2				
2	Lesson 3 Lesson 4				
3	・学年末テスト 演習	年間合計 7 0 時間 (35×2)			
(評価方法)					
学習目標の到達度(含むアクティビティ)・定期テスト・提出物・授業態度などを踏まえ、総合的に評価する。					
また、リスニング教材も活用し、評価に加える。					
各学期の欠課時数1/5オーバーについては、評価を減点する。					
(備考・注意事項)					
学んだ文法事項や表現を使用・確認する場面を授業内で作り、繰り返し学習できるよう工夫する。					

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・音楽科 2年		家庭科・家庭基礎	2	教科書 新版 高等学校 家庭基礎 (第一学習社) 副教材 学習内容のまとめ作業 新版家庭基礎学習ノート (第一学習社) 2022生活ハンドブック 資料&成分表 (第一学習社)	松澤 智子
(学習目標)					
<ul style="list-style-type: none"> ・家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のありかた、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術を身につける。 ・生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。 					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	家庭基礎を学ぶにあたって 【第1章 これからの生き方と家族】 【第9章 生活をデザインしよう】 ①生活時間 1節 青年期を生きる ①自分らしい人生～ ④男女平等と相互の協力	1 時間 10 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭基礎を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、レポートの書き方などの学習方法、評価の方法を理解する。 ・緊急時の対応について考え、実践する力を養う。 ・各ライフステージおよび青年期の特徴と課題を理解する。 ・生活するための労働と現代の働き方について考えさせる。 ・家族の形態・関係・法律について知り、家庭や職場の中での男女平等について、法律や制度の整備、意識の変革をしていくことの大切さに気づかせる。 	
	5	2節 家族・家庭と社会のかかわり ①家族とは？家庭とは？～ ④家族に関する法律 ・中間考査 【第8章 経済生活を営む】 2節 消費者問題を考える①～④ 1節 私たちの暮らしと経済①～③ 3節 持続可能な社会をめざして	8 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・契約、多様な販売方法、問題商法について理解する。また、被害にあった場合の解決方法についても理解する ・消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性を理解する。 ・短期間の収入と支出の特徴を学ぶ。長期の経済設計の必要性について理解する。 	
	6	・期末考査 【第4章 とともに生きる】①②	3 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。 	
	7				
	8	【第2章 次世代をはぐくむ】 1節 子どもの発達①～⑤	5 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・保育を学ぶ意義について学習する。青年期の健康が将来につながっていることを知り、育てる力について学ぶ。 ・子どもの・からだの発達、心の発達について理解する。 	
	9	2節 親の役割①② 3節 子育て支援と福祉①② 【第3章 充実した生涯へ】 1節 高齢期を生きる①～③ 2節 高齢社会を支え合う①～③ ・中間考査	3 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活習慣、健康管理、安全対策の重要性について学ぶ。 ・児童文化財が子どもの発達や生活にどのような影響を及ぼすかを考える ・子育てのための社会的支援と権利について理解する。 ・高齢者の家族との関係や経済状況、社会参加などの実態を学び、介護保険制度のしくみやサービス内容、活動などを理解する。 	
	10	【第5章 食べる】 1節 人の一生と食事①～④ 2節 栄養と食品①～③ 3節 食生活の安全のために①②	10 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の食生活の問題点について考える。 ・食事の意義について学習する。 ・栄養素の種類とはたらきについての基礎知識を習得する。 ・各栄養素のはたらきと多く含む食品について学ぶ。 ・食品の衛生的管理について学ぶ。食の安全性について考える。 	
		<調理実習1>	2時間	<実1> 和風だしのとりかた・炊飯の原理を考える	
		<調理実習2>	2時間	<実2> オープンの使い方・ルウを用いた料理について	
		<調理実習3>	2時間	<実3> 卵の調理性を知る	
		・期末考査	8 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養のバランスの良いやライフステージを考慮した献立を考え、実践できる。 	
3 学 期	12	4節 食生活をデザインする①～④ 【第6章 装う】 1節 人の一生と被服①～④ 2節 被服の材料と管理①～⑤ 【第7章 住まう】 1節 人の一生と住まい 2節 住生活の計画と洗濯	7 時間 7 時間 7 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服などの学習を通して、衣服とは何かを理解する。 ・衣服の機能について、自然環境や社会環境とのかかわりを学習する。 ・種類と特徴を理解し、用途に応じた選択ができるようにする。 ・衣生活を計画的に経営できる知識を学ぶ ・洗濯のメカニズム・保管方法などについて学ぶ ・環境に配慮した衣生活について学習する。 ・人と住まいについて学び、生活条件と住環境を考える。 ・住まいの快適さ安心・安全について学び、災害等の対先について考える。 	
		<生活についての調べ学習>	2時間	日常生活について調べる。その中で問題を検討し、自分の考えを人に伝えるためのよりよい方法を学ぶ	
		・期末考査	合計 70 時間		
(評価方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストの点数、授業の取り組み（製作物・学習プリント・学習ノートの提出、実習・討議への取り組み・授業態度など）を総合して評価する。 ・提出物（製作物、プリント、ノート、資料等）を提出しないと不認定となることがある。 ・実習等については、出席、身支度（清潔な服装・エプロン・三角巾・マスク・フェイスガード・爪・髪の毛・その他）、取り組み（準備・片付け・清掃を含む）、記録提出等により評価する ・欠課が学期の1/5以上の場合には評定を下げる。（1,2学期においては学期の1/3以上欠課した場合は評定を「1」とすることがある。） ・学年末については欠課が1/5以上の場合には原則として不認定とする。 					

2年 社会と情報シラバス(普通科)

学年	教科・科目名	単位数	担当者			
2・3学年	社会と情報	2単位(70時間)	齋藤 広暁			
教科書		日文116 社情307 見てわかる社会と情報				
学習目標						
1. 情報機器を適切に活用し、情報を収集、分析しながら問題を解決する力を身につける。 2. 情報機器を活用したコミュニケーションや情報発信において、他者への配慮や責任をもつ態度を育てる。 3. 情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解し、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。 4. コンピュータや情報通信ネットワークのしくみを理解し、情報社会を支えるシステムに関心をもつ。						
年間授業計画						
学年	学期	月	学習内容	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
2 年 次	1 学 期	4	オリエンテーション 1章 情報機器を使いこなそう 1. 情報機器の基本的な使い方 2. 情報機器を利用するときの注意点	8時間	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校までの生徒の知識・技能・経験などの調査を行う。 ・コンピュータの起動や終了方法を習得する。 ・コンピュータ教室でのマナーを理解する。 ・情報社会に関心を持ち、自らの方法活用能力を高める。 ・コンピュータを活用することで、仕事や生活がよりよくなることを理解する。 	
		5 ・ 6	2章 情報を整理して伝えよう 1. 問題の発見 2. 文書を作成してみよう		<ul style="list-style-type: none"> ・社会の中で多くの情報が公開され、流通されていることを理解する。 ・情報や権利を保護することの必要性とそのための法律、個人の責任について理解する。 ・情報機器の特徴とはたらきについて理解する。 ・情報機器の基本操作方法について確認し理解する。 ・文書などを作成する際に配慮しなければならないことを理解する。 	
	2 学 期	7		13時間	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の本質は何であるかを知り、問題を解決する手段と方法を理解しよう。 ・実際に自ら問題を発見し、さまざまな方法を分析して解決策を考える。 	
		10 ・ 11	2. データを分析してみよう		<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトへを活用した情報の分析の方法について学ぶ。 ・表計算ソフトを使ってグラフを作成する。 ・データを分析する手段や注意点について学ぶ。 	
	3 学 期	1 ・ 2	12	3. 情報をわかりやすく伝えよう	14時間	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的に情報を伝えるために発信の手順や方法について学ぶ。 ・プレゼンテーションソフトを活用した情報発信の方法について学ぶ。 ・プレゼンテーションの実施の流れについて学ぶ。 ・プレゼンテーションのリハーサルや実施上の留意点について理解する。
			1 ・ 2	前年度つづき 3章 情報社会の課題について考えよう 1. 情報化が社会に及ぼす影響と課題 2. 情報セキュリティの確保		<ul style="list-style-type: none"> ・効果的に情報を伝えるために情報デザインの方法について学ぶ。 ・プレゼンテーションソフト以外を活用した情報発信の方法について学ぶ。 ・プレゼンテーションのリハーサルや実施上の留意点について理解する。 ・探究テーマの設定 ・発表に向けての準備
3 年 次	2 学 期	7	3. 情報社会における法と個人の責任 4章 情報社会のしくみを知ろう 1. 情報通信ネットワークとコミュニケーション	4時間	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の特徴とメディアの意味、コミュニケーション手段の発達について理解する。 ・情報通信ネットワークの特性を理解し、効果的なコミュニケーションの方法につ ・情報のデジタル化の基礎的な知識について学ぶ。 ・デジタル化された情報は統合的に扱うことができることを理解する。 	
		8	2. 情報のデジタル化			5時間
	3 学 期	9		15時間	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティを高めるためのさまざまな方法を理解しよう。 ・技術的な方法だけでなく、利用者の意識の向上が必要であることを理解する。 ・情報化が社会に及ぼす影響と課題について理解する。 ・望ましい情報社会のあり方と情報技術を適切に活用することの必要性を理解し 	
		10	3. 情報通信ネットワークのしくみ			
		11	4. 望ましい情報社会を築く			
3 学 期	12	4. 望ましい情報社会を築く	3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システムの種類や特徴を知り、社会生活での役割と影響を理解しよう。 ・情報システムに関する意見を提案・集約し、情報社会の一員としての意識を高 		
年間35 合計 70時間						
評価の方法						
1. 定期考査の点数 2. 作成課題、単元ごとの課題の提出状況 3. 授業・実習の態度・出欠状況 4. 学期の1/5を超えた場合は、評定を「1」とする。						
留意事項・アドバイス・学習法・諸費用など						